

## ANTENNA 03 「希望のあかりプロジェクト4」岩手県陸前高田市を訪問

芸術学部 工学部 経営学部

「希望のあかりプロジェクト4」の学生たちが、昨年12月16日(火)～19日(金)に、岩手県陸前高田市の保育園、小学校、高齢者施設、仮設住宅など6カ所を訪問しました。

東日本大震災の被災地の方々を、東北の山車燈籠「ねぶた」で励まそうと始まったこのプロジェクト。4年目を迎えた今回は、七福神の「恵比寿」を題材に、ねぶたの技法で山笠を制作。保育園では、園児たちが山笠を元気に担ぎ、大いににぎわいました。博多人形の絵付けや、オリジナル竹とんぼ制作など、多彩なワークショップも開催し、参加者は楽しんでいました。さらに、



高齢者施設では、博多人形の絵付けを行いました



「1年生の時から参加していますが、来てくれるだけでもありがたい、という被災地の方々の言葉がうれいんですね」と松嶋さん



保育園では、園児たちがねぶた山笠を担ぎ、竹とんぼ制作などを行いました



「手をたたけ」という楽曲に合わせて、現地の皆さんが手をたたき、動画を写真映像学科の学生が撮影。今年2月19日(木)～3月4日(水)に天神イムズで、撮影した動画を上映し、多くの方が笑顔で見入っていました。

プロジェクトリーダーの芸術学部デザイン学科4年の松嶋寿紀さん(九産大付属九州高校)は、「支援を指して始まったこの活動も、遊びを中心とした交流を重視する時期に入ったと感じています。これからも、この活動を続けて交流を深めてほしいと思います」と後輩へエールを送りました。

## ANTENNA 01 九産大オリジナル「キャンパスランチパック」販売

商学部

商学部の学生と山崎製パン株式会社福岡工場の共同企画による「キャンパスランチパック」が、2月1日(日)～3月31日(火)まで期間限定で販売されました。これは、山崎製パンが全国の大学と展開している企画で、九州では今回が初めてです。

商品開発に当たり同社から、「発売時期を意識したもの」「ランチパックの形状や商品特性にマッチしたもの」「そして「大学のカラー」が感じられるもの」などの要望がありました。これに、各ゼミから集まった商学部の学生25人が取り組みました。一人20案近くアイデアを出し、実現可能な案に



お話を聞かせてくれた商学部の学生たち。左から、商学科4年の橋口敏朗さん(神村学園高等部)、観光産業学科2015年3月卒業の川崎しほさん(小林高校)、商学科2015年3月卒業の矢山夏子さん(博多青松高校)、観光産業学科4年の城戸菜央さん(九産大付属九州高校)



九産大オリジナルの「ランチパック(チキンカツ)甘酢ソース」



裏面には、参加学生の似顔絵とメッセージも掲載



試食会後の様子

絞り込み、同社へプレゼンテーションを行い、試作を繰り返しました。

この過程で、学生たちが一番こだわったのは「九産大らしさ」。試行錯誤の結果、学生食堂「オアシス」の人気メニュー「中華風からあげ」をテーマに取り上げることになった。味や食感にこだわり、満足度のいく商品が完成しました。

学生たちは、「ものづくりを企業目線で考えることができました」「企画のため、友人やOBなど、幅広い世代の意見を聞いたのは貴重な体験でした」など、今回の活動の成果を振り返りました。

## ANTENNA 04 マンガ倉庫・GREE 2つのCMコンテストで入賞

芸術学部 写真映像学科 2015年3月卒業 和田 泰明さん(直方高校)

写真映像学科を今年3月に卒業した和田さんが、マンガ倉庫CMコンテストで「ニコニコ動画賞」を受賞、GREE CMコンテストでも入賞しました。

マンガ倉庫CMコンテストの入賞作品は、今年3月に写真映像学科を卒業した阿部誠さん(九産大付属九州産業高校)、美術学科を卒業した野田萌未さん(九産大付属九州高校)との共同制作。コピーライター志望の阿部さんとマンガ家志望の野田さん、そして和田さんが、それぞれの強みを生かしながら、モノクロマンガによる動画を仕上げました。和田さんは「1人で作る場合は、映像技術にこだわって、



「授業の課題だけでなく、自主制作をすすと実力が付きますよ!」と笑顔で話す和田さん



CONGRATULATIONS!



GREE CMコンテストで入賞した「踊り子クリノッペ」



マンガ倉庫CMコンテストで「ニコニコ動画賞」を受賞した作品

企画がおろそかになりがちですが、3人で作ることで、動画に説得力が生まれたと思います」と、作品の良さを分析しました。

GREE CMコンテストで入賞した「踊り子クリノッペ」は、CG技術を駆使しながらも、ほのぼのとした作品に仕上がっています。和田さんは「好きだったゲームのキャラクター、クリノッペが日常生活に、もしもいたらという設定で、癒しをイメージして制作しました」と話しました。

「今回の受賞は大きな自信になりました。今後は、レベルの高いCGクリエイターとして活躍できるよう頑張りたいと思います」と抱負を話しました。

## ANTENNA 02 芸術学部が「玄海みらい学園」の校章、校舎、制服などをデザイン



校内の石柱・フェンス・手すりなど学園の至るところのデザインを手がけました



校章のデザインは、「玄海」の「玄」の文字で、「みらい学園」の「みらい」を表現し、バックは、町花の「桜」の花びらを重ねたもの。伝統的な雰囲気を保ちつつ、みらいに向かって躍進・進化を重ねていく気持ちを表現しています

平成27年4月6日(月)に佐賀県で開校する、小中一貫校「玄海みらい学園」は、校章、校舎、制服などに九産大発のデザインを用いています。

玄海町から、新しい学園設立に当たり、「愛着の持てる学校、良いものを大切に引き継いでいく「百年学校」をテーマとしたデザインの相談を受けた芸術学部では、河地知木教授、塚本洋守准教授、佐藤昭則講師を中心とし、学生を交えたプロジェクトチームで平成24年9月からデザインに取り組んできました。

九産大のデザインは、校章・校旗、

「玄海みらい学園」の字体をはじめ、校内の石柱、フェンス、手すり、大階段、学校案内板、学内表示板、机・椅子のほか、制服のエンブレム・ボタン・ネクタイ・リボン、学園で使用する封筒など、至るところで新しい学園を彩っています。

平成27年度は、ベランダ壁面のレリーフ制作や、学園パンフレットのデザインなどを予定しています。芸術学部は、玄海町との連携をさらに深め、体験学習や出張授業を行う計画もあり、今後も継続するプロジェクトです。

**ANTENNA 08** 「第9回 技術教育創造の世界(大学生版) 発明・工夫作品コンテスト」で学会賞受賞  
工学部 住居・インテリア設計学科



CONGRATULATIONS!



「コンテストへの提出に当たって、仲間と一緒に夜遅くまで資料づくりに取り組みました」と苦勞を語る友清さん

三角形のペニヤ板を組み合わせると、いろいろなインテリアに展開ができます

住居・インテリア設計学科の学生グループ(12人)が、設計・制作した作品「コンバーチブル・トラス」が、日本産業技術教育学会主催の「第9回 技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテスト」で、学会賞を受賞しました。

この作品は、切れ目を入れた三角形のペニヤ板を組み合わせて、椅子やテーブル、ラック、ソファ、ベッドなどの家具を自由に作るというもの。制作に当たっては、強度やペニヤ板に入れた切れ目の位置を確認するために、試作を重ねました。その結果、ものづくりの三要素である「用・強・美」を備えた作品に仕上がりました。

グループ代表で住居・インテリア設計学科3年生の友清純矢さん(クラーク記念国際高校)は「作品を、二次元的に組み合わせられるように、もっと改良を加えていきたい。将来、商品化されればうれしいですね」と話しました。

**ANTENNA 05** 学生と企業の連携によるリノベーション物件が完成  
工学部 住居・インテリア設計学科 2015年3月卒業 原田 協子さん(明光学園高校)



「設計前には、たくさんのリノベーション物件を見てプランを考えました」と原田さん

壁一面に有孔ボードを貼ったユニークな室内

今年3月に住居・インテリア設計学科を卒業した原田さんが株式会社三好不動産と連携した、マンションのリノベーションが完成しました。

原田さんは「世界に一つしかない趣味の部屋」をテーマに、若い世代をターゲットにしたワンルームマンションを設計しました。

予算の制約の中で、当初のプランの変更を余儀なくされることもありましたが、より良い部屋になるよう施工会社とのやりとりを重ねました。現場に何度も足を運んだという原田さんは「現場の方も、できるだけ設計を実現できるように努力してくれました。仕上がった部屋を見たときは感動でした」と喜びを語りました。

4月から、三好不動産で働いている原田さんは「大学時代に学んだことを、仕事にも生かしていきたいですね」と抱負を話しました。

**ANTENNA 09** 「フューチャードリーム!ロボメカ・デザインコンペ」で優秀作品に  
工学部 芸術学部 経営学部

このコンペは、柔軟な発想ができる技術者の育成を目的としてデザインを募集するもので、今回のテーマは「宇宙生活」でした。受賞作品は、宇宙船内で使える洗濯機です。学生たちは、宇宙船内では洗濯をせず、着用後の服はゴミになると知り、エコと快適性の観点から発案。洗濯装置に入れた衣服を少量の水で湿らせた後、凍結させ、水によって繊維の表面に出て来た汚れを落とす仕組みです。

チームリーダーの工学部バイオロボティクス学科3年の高木真一さん(近畿大学附属福岡高校)は、「受賞で満足せず、今後も洗濯機の改良を考えていきたい」と話しました。



「プレゼンテーションを経験して、苦手だった発表にも少しずつ慣れてきました」と語る高木さん



CONGRATULATIONS!

世界で一番寒いといわれるロシアの村「オイミヤコン」の洗濯方法にヒントを得た受賞作「オイミーウオッシュ」

**ANTENNA 06** 「九州アプリチャレンジキャラバンコンテスト」で最優秀絆賞受賞  
経済学部 情報科学部



CONGRATULATIONS!



左から情報科学部情報科学科4年の松本大輔さん(川柳高校)、経済学部経済学科3年の小林雄太さん(自由ヶ丘高校)。「満足できないところもありますが、アプリとして完成したこと自体が奇跡(笑)!それぞれが得意分野を担当して進めることで、チームワークの楽しさを学べました」

経済学部と情報科学部の学生が、九州の学生のためのスマートフォンアプリコンテスト、九州アプリチャレンジキャラバンコンテストで「最優秀絆賞」を受賞しました。

九産大の経済学部の学生3人と情報科学部の学生1人、そして福岡工業大学短期大学の学生1人を交えたチームで参加。作り上げたアプリ「WAN ROOM」は、新入生がスムーズに友人を作れるよう、共通の趣味を持った人を見つけたり、チャットしたりできるものです。

情報科学科4年の松本さんは、「チームでアプリを作るのは初めての体験。みんなで協力することで、良いアイデアがたくさん生まれ、楽しい経験でした」。

経済学科3年の小林さんは「企画やデザイン、全体のまとめなどを担当しましたが、ものづくりの面白さを学ぶ良い機会になりました」と笑顔で話しました。

**ANTENNA 10** 「第10回 学生インテリアデザインコンテスト」で最優秀賞受賞  
芸術学部 デザイン学科 2015年3月卒業 小林 さくらさん(近畿大学附属福岡高校)



「受賞できるとは思っていなかったのでびっくりしています。今後は人に喜ばれる作品を作りたいですね」と受賞の喜びを語る小林さん

CONGRATULATIONS!

九産大北門前のオープンスペースに設置した小林さんの受賞作品

今年3月にデザイン学科を卒業した小林さんが「第10回 学生インテリアデザインコンテスト」で最優秀賞を受賞しました。このコンテストは、日本インテリアデザイナー協会と大川工業会が開催しているもので、大学や専門学校でインテリアデザインを学ぶ学生を対象にしています。

細かい作業が好きだという小林さん。学生最後の作品に、あえて苦手な分野だった大きな家具を作ることで自信につなげたいと、制作に取り組みました。受賞作品は「オープンスペースでの新たな過ごし方」。多くの人がオープンスペースに集って、利用できる家具を提案しました。「一番こだわったのは、色づかいです。利用する人が元気になる色で、と考えて選びました」と小林さんは話しました。

小林さんの作品は、九産大北門前のオープンスペースに設置しています。

**ANTENNA 07** 「第12回 主張する『みせ』学生デザインコンペ」奨励部門賞受賞  
芸術学部 デザイン学科4年 月形 麻理奈さん(筑前高校)



「表彰式の後の懇親会では、同世代の受賞者とも交流ができ、刺激を受けました」と話す月形さん



CONGRATULATIONS!

ロンドンの2階建てバスなどをイメージした「ぶらっとドナーカフェ」

商業施設技術団体連合会が主催する「第12回 主張する『みせ』学生デザインコンペ」で、デザイン学科4年の月形さんが奨励部門賞を受賞しました。

受賞作は、新しいコンセプトの献血バス「ぶらっと(Blood)ドナーカフェ」です。

企画に当たって月形さんは、若者の献血離れを改善するために、若者や女性が気軽に立ち寄れるものを目指しました。そこで思い出したのが、3年生の夏に、九産大の海外ジョブトレーニングで訪れたシドニーのカフェ。「カフェに立ち寄る気分が、献血に来てくれると良いな」と思って提案しました」と月形さんは語ります。

「たくさんの方と意見交換できたことで、新しいアイデアを生むことができたと思います。将来は、企画・提案に関する仕事をしたい」と話しました。

ANTENNA

11

## 「歴史的空間再編コンペティション2014 ～第3回『学生のまち・金沢』設計グランプリ～」で3等

工学部 住居・インテリア設計学科 2015年3月卒業 山口 史さん(熊本工業高校)

山口さんは、「今後は、研究を生かして建築の仕事をした」と話しました。

今年3月に住居・インテリア設計学科を卒業した山口さんが、「歴史的空間再編コンペティション2014『第3回『学生のまち・金沢』設計グランプリ』」で3等に選ばれました。

山口さんの作品は、「奏でる風景ー不知火町の田園における人の居場所の新たな提案」。熊本県不知火町の田園地帯で、8カ月以上の現地調査を踏まえ、人々のコミュニケーションに利用できる場所を考えました。山口さんが着目したのは、田園に点在する水利ポンプのそばにある、トタン屋根をふいた簡易的な建築物。伝統的に作られたこの建築物を増やすことで、農業の合間や散歩中の休憩などに、住民が憩い、交流する新しい居場所として、地域の活性化につながると考えました。



CONGRATULATIONS!

「住民の方に役立つプランに仕上がったと思います」と山口さん

山口さんの作品「奏でる風景ー不知火町の田園における人の居場所の新たな提案」

ANTENNA

12

## 「ビジネスプランコンテスト」で3位に入賞

経営学部 産業経営学科4年 尾崎 和さん(八幡中央高校)

CONGRATULATIONS!



「事業開発コースの授業で、プレゼンすることに慣れていたので、今回のコンテストでも落ち着いて話すことができました」と笑顔の尾崎さん

産業経営学科4年の尾崎さんが、さくらフォレスト株式会社主催の「ビジネスプランコンテスト」で3位に入賞しました。このコンテストは、新たなビジネスプランを創出し、起業を志す九州の若者を応援するものです。

尾崎さんのテーマは、「女性の性の問題に関するビジネスプラン」。女性が性の相談をできるカウンセリングルームと、女性のためのボディケアグッズやランジェリーなどを、一緒に取り扱うショップを提案しました。「もっと性に対して気軽に相談できる場所を設けることで、悩みの解消につなげることができたら」と尾崎さんは話します。

コンテストで尾崎さんのプレゼンテーションを聞いた審査員からは「こんなショップを実現してほしい」と支持する声も聞かれました。

尾崎さんは、「受賞できて自信になりました。将来は、企画やウェブマーケティングの仕事がしたいです」と話しました。

ANTENNA

13

## 中学校教員(美術)採用試験現役合格

芸術学部 デザイン学科 2015年3月卒業 野田 枝里さん(九産大付属九州高校)

CONGRATULATIONS!



「新入生の皆さんも、早く大学での目標を見つけて頑張ってください」と笑顔でエールを送る野田さん

今年3月にデザイン学科を卒業した野田さんが、北九州市の中学校教員の採用試験に合格し、この春から美術の先生として教壇に立っています。

中学生の頃から、教員になりたかったという野田さん。それでも、教育学部のある大学ではなく九産大を選んだのは、オープンキャンパスが決め手でした。「雰囲気明るくて、先生方も優しく、自分に合っているし、美術やデザインの実力が付きそうだと思います」と話します。

入学後は、通常の学科科目に加え、中学校と高校の教職課程を履修。「中・高の2つを選択すると履修科目はさらに増えます。かなり大変でしたが、夢があるから頑張れました」と振り返ります。限られた時間の中で、野田さんのモットーは「やるときは、やる！」。一回一回の授業に集中し、ノートをしっかり取ることを心がけたといいます。

また、教職を目指す仲間同士で行う模擬授業の後には、声の大きさや話し方など、お互いに意見を述べ合い、技術の向上を目指しました。「勉強の後、懇親会を行うこともありました。そこで友人も増え、お互い相談することができて、心強かったですね」と野田さん。

「これからは、生徒を理解し、生徒に希望を与えられるような先生を目指します」と、決意を語りました。